

全国高校野球選手権大会

野球場大会

第4日

第五十七回全国高校野球選手権大会三重大会第四日目の二十一日は、津、松阪、伊勢の三球場で残りの一回戦一試合と二回戦七試合が行われ、神戸、三重、木本と優勝を争う好チームがそろって三回戦へ勝ち進んだ。津は延長十一試合は白山がねばって延長戦にもつ込み、津にサヨナラ勝ち。二試合から二回戦に移り、四日市兩が伊賀の伊達投手の制球難につけ込み大勝、三試合は神戸が村橋の大会第9号本塁打で三打点を打ち、久居農林に快勝した。松阪は第一試合は飯沼の投手陣が乱れ、自滅した恰好で桑名西に敗れ、第二試合は尾花が足を生かした攻撃で四日市農芸を退けた。第三試合は三重がエース、献を途中からハッチに下げる余裕を見せたが、両勢が一審手投手を打ち込み、3点差まで追いあげた健闘をした。伊勢球場第一試合は1点を争う好ゲームを展開、松阪商が馬羽に逆転勝ち、第二試合は木本が異投手の好投でついに試合運びで四日市を敗り、第三試合は稲穂投手が八回に爆発、四日市工を完封で破った。きょう二十三日は津、松阪、伊勢の三球場で残りの一回戦九試合が行われる。

白山がサヨナラ勝ち

延長 津は先制点守れず

【評】白山がねばって九回同点に追いつき、延長十一回二死から高橋、森川の連打でサヨナラ勝ちした。
白山は、2点をリードされた九回の下タン場、代打高橋が四球、続く野呂、小堀の連打で無死満塁のチャンス。高橋が押し出しの四球を選び1点差に詰め寄った。しかし、森川のスクイズは見破られ、併殺で二死。万事休すかと思われたが、ラッキーな敵失で同点に追いつき、延長十一回サヨナラ劇を生んだ。
津は初回、白山の小山投手の立ち上がりで攻め、一死満塁から前

川の右翼オーバーの2打点二塁打で先制。一年生のエース・楠井も七回まで1ヒットに抑えていたが、終盤疲れが出て打たれた。(爪田)

| | | | |
|----|---------------|-----------------|----------------|
| 打点 | 0000200000 | 打点 | 1100000000 |
| 安打 | 0000111000 | 安打 | 1200000000 |
| 打数 | 4334433314 | 打数 | 54344553145 |
| 津 | 福西 伊前 新橋 下 古山 | 【白山】 | 橋川 岡山 誠美 谷尾 呂畑 |
| 津 | 福西 伊前 新橋 下 古山 | 高森 森 小滝 清水 菅野 小 | |
| 振球 | 9801 | 振球 | 8902 |
| 失策 | 0 | 失策 | 4 |
| 白 | 1 | 白 | 0 |
| 津 | 5 | 津 | 2 |

津 白山戦。十二回の白山の攻撃、二死三塁、森川の5球目、津の捕手西谷は「直球」のサインを出した。マウンドでつなぐ捕手投手。思い切り振りかぶって投げた球を、森川のバットがとらえた。「カーン」。打球は必死で追いかける二塁手を遊撃手の間を抜けて中前へ。……。白山のサヨナラ勝ち。試合終了後、両各書は同僚と一瞬間スタンドでじっと次の試合を見つめていた。「来年は受験の年でうけと、必死もう一度来ます。見ていってください」——第五十七回全国高校野球選手権大会三重大会(朝日新聞社、泉高野連権)四日目の二十一日は、津、松阪、伊勢の三球場で一回戦の残り二試合と二回戦七試合の計九試合が行われた。津球場では、津、白山が今大会四日目の延長戦の末、白山が勝利して二回戦へ。